

# 東京教区時報

WEB: <http://www.nskk.org/tokyo/index.htm> E-MAIL: [comm.tko@nskk.org](mailto:comm.tko@nskk.org)  
Phone: 03-3433-0987, Fax: 03-3433-8678 Diocese Office

第115 (定期) 教区会

2011年4月3日 発行  
日本聖公会東京教区  
港区芝公園3-6-18  
編集人 英 久子

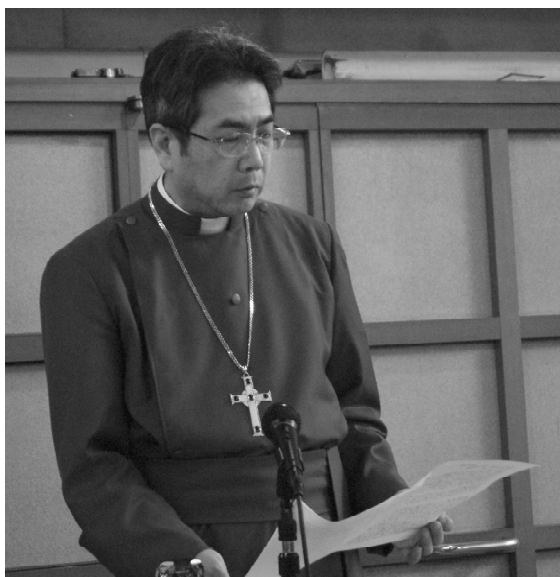
本日は休日にもかかわらず、また交通機関の厳しい中、東京教区のためにご集まり頂き本当にありがとうございます。心から感謝申し上げます。

2月の11日に多くの方々の祈りに支えられまして主教に按手され、東京教区主教に就座して第一回目の教区会になります。11月に被選されて以来、いろいろなることを考えて参りました。そして本日はこれからの教区の方針について小職の方針を示し、皆様方と熱き議論をかわしていきたいと思っておりますけれども、ご承知のように3月11日に東北地方を中心起こった地震と大津波そして続く原発事故のために、本

◇第115回(定期)教区会開会演説◇

東京教区主教 アンデレ 大畑 喜道

教区会も異例ではありましたが、開会式を繰り上げ、10時から聖餐式を持つて開会いたしました。また皆様方にはご連絡をさせて頂きましたように、手弁当で来ていただくというようなこともなりました。交通機関や都内の停電のことなどを考えますと、議事日程を短縮しなければならないのではないかと考えています。東京教区、また日本聖公会全体におきましても様々な課題が山積しておりますけれども、皆様方のご協力で良き協議の時、そして実り豊



かな時を持つことができたと思います。しかしこの混乱の時だからこそ、基本の部分をしっかりと押さえそれに立ち戻ることを確認したいと思えます。異例ではありますが、けれども今回の震災で逝

去された方々や被災された方々のため、また安否が確認できずに家族やご友人を捜しているらしやる方々のため、東北教区・北関東教区の信徒教役者のために黙祷を捧げることから始めたいと思いま

す。地震によってまた津波によって大きな悲しみの中にある人々のためにそれぞれの思いがあると思いますけれども、主に信頼し心を一つにして祈り求めていききたいと思えます。

黙祷いたしますよう。

さて地震に遭いましたとき、東京も大きな揺れに見舞われました。小職も管区事務所におり外出中でしたけれども、東京以上に東北地方が酷い地震であったこと、そして大きな津波に襲われたことを知りました。すぐに車で教区事務所へ帰り、各所に連絡を入れましたが不通でした。人々は外に

出てすぐに都内は交通渋滞になりました。帰宅できずに教区ならびにこの聖アンデレ教会でも、20人余りの方々

がその夜はお泊りになりました。常置委員長は早速、教区内の情報を集めてくださいますけれども、幸いなこと

とに東京教区の被害は軽微なものであります。多くの返事が来る中、大変に嬉しかったのは各教役者が信徒の安否を訊ね確認作業をし、時には混乱の中でも祈りをともにしてくださった方が多かったことでもあります。そしてこの先生に励まされた、あの先生に励まされたというお話を私は直接その信徒の方々から聞いたということ

たいと思えます、それぞれの方々が本心に心を合わせ牧会に励んでおられることを嬉しく思いました。

またその日の夜からは、日本各地はもとより、世界中から祈りのメッセージが伝えられました。東京教区のHPにはそれを載せてあります。ご覧いただけます。そしてそのメッセージは勿論、東北教区にも伝わっていますし、北関東教区にも伝わっています。また教役者会では幹事が集まり、昨夕

集まれる人たちだけでいいから集まろうと、こう呼びかけ、聖餐式をお捧げいたしました。そして急な要請にもかかわらず50人以上の方々が集まり、そ

こで力強い聖餐式をお捧げすることができました。私たちはどんなことがあっても負けない。立ち上がる勇気が与えられる、そのことを、確認できたと思えます。

また何よりもこのような事態の中で励まされたことは、東北教区に加藤博道主教様がビスケットを持って、自転車で信徒宅を回られたとお聞きしたことであります。ご自身も被災されているにもかかわらず真つ先に訪問を繰り返し、祈られたことは、被災された方々にとつて何よりの慰めであったと思います。各教会では大斎節のプログラムとして「裸足の宣教」を学んでおら

れる教会も多いと思いますが、まさにそれを実践されておられる。しかし、神様の福音を伝えよう、神の愛をしつかりと掴んでいこう、そんな働きを嘲笑うかのように、悪魔の業としか思えない様な、神の力に挑戦するかの様に次々に深刻な事態が起こっています。残念なことに福島県相馬の磯山の教会の信徒宅は津波で流されてしまい、信徒の一人がお亡くなりになり、お二人が行方不明であるという情報が伝わってきました。他にも安否が確認されていない方々があります。死傷者の数は毎日増えております。原発の事故もわかりです。しかし、一方で、都内のコ

(3)

ンビニやスーパーには生活必需品がなくなったり、買占めに奔走するような姿が見受けられるというのも悲しい現実であります。被災された東北地方ではいまだに孤立し、水や食料にも事欠いている状況の中にある方々があることを知りながら、自分達だけという人々が多くいるのもこの現実であるのです。

地震から11日が経過し、色々なことが色々な状況が分かっってきました。そして、すぐにでも飛んで行って傍らにいたいと願う方々も、ボランティアをしたいと願う人々も多いたと思いますけれども。今、受け入れ体制が整わない前に行く

ことは慎んで頂きたいと思えます。一昨日は東北教区の要請で、中村淳司祭が管区の宣教主事として中部教区と協働して現地に行つて来られました。ボラン

ティアに参加する意思のある方は申し出ていただければと思えます。事実また私の方にもホームステイ先として我が家を解放したいという様なお申し出をくださる方が何件もあつたことを本当にここで嬉しく思い報告したいと思えます。しかし今、私たちは、ここでこの地で祈つていきたいと思えます。連帯していることはきつと伝わります。そして、東北教区の人たちがこれをしてほしい、あれをしてほしいといった

ときにすぐにも行く体制を、今ここで作り上げていくことが急務であろうと思つています。

昨年行われた教区間の協働のことでは教区に建議案がだされました。具体的に何も進展していかないようにも見えますけれども、少しずつその芽が育ちつつあるように思えます。宣教主事を中心にそれを育てていきたいと思えます。今回の地震に際し今教区会では支援のための議案を急遽、常置委員会から出ささせて頂きました。財政的なことを考えることこの決断をすることは非常に大変なものであるかもしれませんが、しかし、これも教区間

の協働の一つの大きな働きであると思えます。皆様方のご協力をお願いする次第です。

また、人的交流もしていかなければならないかも知れません。確かに東京教区の現状を見ると毎週日曜日に同時刻に聖餐式を捧げること、一教会一牧師の体制は非常に難しくなっています。しかし、現状では、基本的には一教会一牧師の体制を維持しておりますけれども今後大胆なことを考えて行かなければ立ち行かなくなっていくだろうと思えます。教区間の協働と同様に、教区内教会間の協働ということも重要な課題でありましよう。ただこれは、主教が上から何をすると決

めたから実現するといふものではなく。教区の皆様とともに悩み、祈りあつていく課題であると思えます。また現代社会の中において牧会をするという事にも非常に難しい時代であるかもしれません。牧会にはマニュアルがあるわけではありません。互いに悩みあい、聖餐を中心に集まつて力づけられていかなければ限り私たちはその勤めを果たしていくことはできません。そのために聖餐共同体の大切さを確認することを最優先課題として考えております。

ある人は今回のことは神の裁きだと言います。しかし私は悪魔の

挑戦のようにも思えま  
す。悪の力は私たちの  
心の間隙を縫って、神  
との関係を断とうとし  
ます。東京も節電のた  
めに随分と暗くなりま  
したけれども、ある方  
がこんなことを語って  
いました。「暗闇の中  
で考えたことですが、  
暗いとは、日の音と書  
きます。闇とは門の中  
に音があると書きま  
す。暗闇の中で私たち  
は、前の物も後ろの物  
も、今自分がどこにい  
るのかも分からなくな  
る。だからこそ希望の  
光の音に耳を澄ますべ  
きではないか。ヨハネ  
福音書はイエスが私は  
門であると言われたの  
だから。その救いの言  
であるお方の救いの言  
葉を聞くその時がこの  
暗闇の時ではないか

と」。様々な困難にあ  
るときに私たちは絶望  
し、悪魔の力に屈服し  
てはいけないのだろう  
と思います。人々が絶  
望の闇の中にあるとき  
に、私たちは光の音を  
聞くことができる。救  
いの門の真つ只中に神  
の愛の言葉を聞くこと  
ができる。私たちは絶  
望の闇の中に放置され  
るのではなく、その状  
況の中にあっても、抜  
け出せないと思えるよ  
うな闇を抱えていて  
も、私たちはそこから  
抜け出すことができる  
のだと。なぜなら私た  
ちは神様から愛されて  
いるからです。絶望的  
な状況は、この信仰  
を、確信を揺るがしま  
す。しかし、私たちは  
祈りの連帯を通し、み  
言葉をしっかりと聞く

ことを通して悪魔の攻  
撃に立ち向かっていき  
たいと思います。そう  
いう意味では、各教会  
においても本当にみ言  
葉を学ぶそのときを  
しっかりと持っていた  
だきたいと思えます。  
アダムとエバの時、い  
わば何ひとつ不自由し  
ない光り輝くエデンの  
園にいながら、彼らは  
悪魔の力に負け誘惑に  
負けて神に背き禁断の  
木の実を食べました、  
そして、自ら暗闇に落  
ちていきました。人は  
暗闇の中でもがき、自  
分がどこにいるのか、  
自分が何をしているの  
かが見えなくなりま  
す。どうすれば良いの  
かを見失います。しか  
し神はそんなアダムと  
エバに語りかけます  
「どこにいるのか？」

と。この「どこに  
いるのか？」光を創造し恵  
みを与えてくださる神  
は、神との関係を断  
ち、闇の底にもがく人  
を見捨てようとはしま  
せん。必死に探そうと  
しておられる。神の悲  
痛な嘆きがそこにあり  
ます。この闇の中だか  
らこそ、真のみ言葉に  
耳を傾けよ。そしてこ  
のことが明確に示され  
ているのが、昨日読ま  
れた福音の一節であろ  
うと思えます。「神は、  
そのひとり子をお与え  
になったほどにこの世  
を愛された。ひとり子  
を信じる者がひとりも  
滅びないで、永遠の命  
を得るためである」  
と。独り子をベツレヘ  
ムの飼葉桶という夜の  
闇に送り、その生涯を  
通し十字架という絶望

の極みにまで送った父  
なる神様の愛。そこ  
は深い闇がありまし  
た。そしてキリストご  
自身のご受難、苦しみ  
が続きます。神はわた  
したちを救うために、  
神との断絶を赦し、ま  
た、もう一度関係の回  
復を与えるために、解  
放する為に自ら闇のど  
ん底に飛び込んで来て  
下さいました。「世を  
愛された」という、こ  
の「世」とは神に背を  
向けてしまうこの世界  
と全ての人を表す言葉  
だろうと思えます。自  
分中心で自分だけがと  
思い、水や食料を自分  
だけが買い集めている  
ようなこの世の中一人  
一人にも、その人達が  
本当に心を入れかえ、  
愛の道に進んでいける  
ようにとその人々に、

今も「あなたはどこにたっているのか」と探し求めておられる神様のその出来事。この世を愛されている主イエスの十字架、この究極的な愛の出来事は誰一人、滅びに落ちることのないようにするためだと聖書には書かれています。

昨日の説教を繰り返すつもりはありませんけれども、大きな闇を抱えていたニコデモはエリート中のエリートで密かにイエスを訪ねてきます。それが夜だったと伝えていません。今までやってきたこと、教えてきたことは正しかったのか。今までのユダヤ教の生き方に疑問を持ち、ニコデモはイエスの言動の

中に神の働きを見たのでしょうか、しかし、完全に今までの生活を捨てイエスに従うことができずに、堂々と朝になつてイエスに近付くことはありませんでした。心に闇を抱えたままやって来ます。しかし、イエスはそのニコデモを優しく迎え入れ、そして、教えるのです。「一番根本のことが分かればもう大丈夫だ。『肉から生まれるものは肉であり、霊から生まれるものは霊だ』人間の側の行為や努力で生み出される結果だけを求め続けるはいけない。神の御霊によつて人間の内に生まれる現実、死に定められた人間性に限界づけられない。神とかかわりを持ち、永遠性を宿

す霊的な現実、人の心の中に神から吹いてくる風があることを信じ続けなさい。神の熱き思いが、生き活きとした命が吹き込まれている。霊に生きる人になりなさい。そして、愛してやまないあなたのためならば私は十字架への道をあえて進んでいきます。この十字架の先に神の力が、すべての人を生き活きと立ち上がらせ、転んでも転んでも、なお立ち上がる事のできる力があるのだから。神は私たち一人一人を心底愛しているのだと優しくニコデモを諭します。人間の作つたものに支配されるような生き方ではなく、神の息吹によつて生かされるようになりなさい」。しか

し悪魔は巧妙にもまた大胆にも今もイエスのこの言葉を私たちの心に届かないように狙っています。しかし今日、開会の聖餐式の中で読んだエレミヤの言葉にもあるように、どんなものが戦いを挑んだとしても勝つことが出来ないのだ、その確信を私たちはしっかりとここで持ち続けイエスの言葉を受け止めて悪魔の業に対抗していきたいと思ひます。

長い準備の期間を過ぎ、この4月2日に倉澤一太郎聖職候補生が執事に按手されることになりました。彼の働きのために祈って頂きたいと思ひます。そしてこの4月から一人の聖職候補生志願者が

神学院に入学されます。聖マルチン教会の太田信三くん、神からの召し出しがどのようであるかを見極め、その道に依えていくことができるように、彼と家族のためにも祈っていただきたいと思います。また、カナダ留学中の関口美佐穂聖職候補生は昨年未をもって認可の取り消しを申し出られました。また吉田尚史聖職候補生も聖職候補生の認可を3月末日取り消すことになりました。今後は今まで学んだことを信徒として十分に生かして欲しいと思ひます。様々な困難に遭いながらも一生懸命に祈り、自分の道を探し学び続けた二

人を皆で祝福したいと思えます。これからは神様の召し出しは色々な形であるのだから本場に神様からの力をいただいで与えられた場所です。様々な形の召し出しに応えていく様にと、皆様方の祈りを必要としているこの二人のために熱い思いを集めていただきたいとこの様に思います。

最後になりましたけれども、昨年の夏、植田仁太郎主教様は体調を崩されご退職されました。そして約半年の間、北関東教区の廣田勝一主教には管理主教の重い務めを果たして頂きました。今、北関東教区も水戸や日立の教会が被災しておりま

すけれども、ニュースでは東北地方を中心に色々な地震の被害がありますけれども、廣田主教様は東京教区に迷惑をかけてはいけないとおっしゃるのかあまり情報を流してくださいませ。しかし本場に私たちは、東北教区、北関東教区の皆様方のことを覚えて祈っていききたいと思えます。廣田勝一主教様は多くの要職を兼務されながら東京教区のためにご尽力くださいました、私たちが祈り支えあい、話し合っていくことができるような道筋を作ってくださいました。これは本当に感謝の言葉ありません。またこの3月末日を持ちまして木下量熙司祭、河野裕道司祭が定

年退職をされます。公に永くご奉仕され現職を退かれましても、健康にご留意され、神様のみ言葉の仕え人として今後ともご活躍されることを期待しております。残された教役者は先輩諸氏が必死で示してくださいました道を進んでいきたいと思えます。今、河野司祭様のご出席でありますので特に立ち上がっていただいて感謝の拍手をしたいと思えますが、

長い開会の挨拶になりましたけれども、ご清聴感謝申し上げます。なお先にも申し上げました通り、現在、東京も交通事情など混乱が予想されております。報告に関しては既に熟読され臨まれていることと思えます。議案審議に多くの時間を割きたいと存じますので、よろしくご協力

に。ほどお願い申し上げます。開会のご挨拶にかえさせていただきます。ありがとうございます。ありがとうございました。



《第115(定期)教区会》開会演説  
2011年3月21日 聖アンデレホール  
〔編集・制作 広報委員会〕